

2020年度事業活動の概況

2020年度の事業活動の概況を示す主な経営指標は以下のとおりです。

① 収入保険料（販売額）

契約者から払い込まれた保険料による収益で、一般事業会社の売上高に相当します。

収入保険料（販売額） **7,854億円**

新型コロナウイルスの感染拡大の影響等を背景として、前年度から9.9%の減少となりました。

② 保有契約

生命保険会社が事業年度末にどのくらいの生命保険契約をお引き受けしているのかを示す指標です。

保有契約件数 **104万件** 保有契約高 **6兆5,958億円**

契約時にお客さまが設定した円貨ベースの目標金額に到達した契約が大幅に増加したことに伴う解約増加を主因に、保有契約件数は前年度末から14.1%減少し、104万件となりました。
一方、保有契約高は、新規契約獲得のほか、外貨建契約の円換算残高が円安の影響で増加したことにより、前年度末から1.3%増加し、6兆5,958億円となりました。

③ 総資産

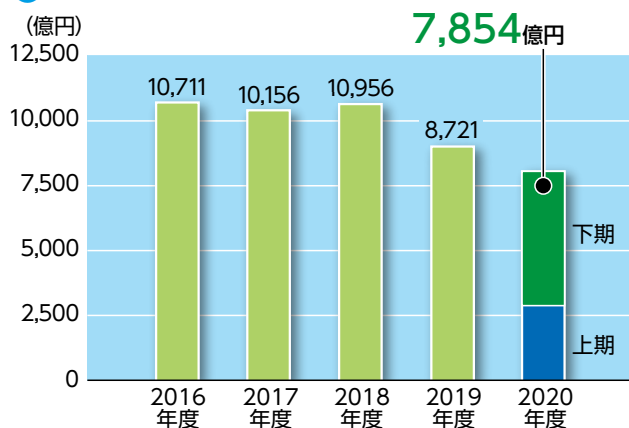
貸借対照表の「資産の部」の合計金額です。

総資産 **7兆247億円**

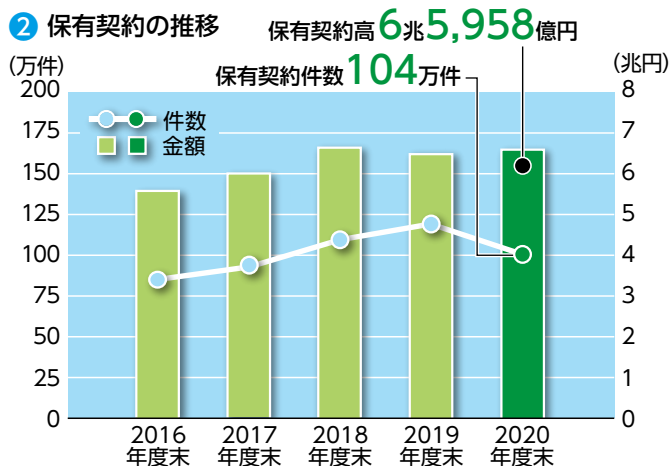
総資産のうち、特別勘定資産（2兆598億円）*は、主に投資信託で運用しています。
また、一般勘定資産（4兆9,649億円）*は、主に外国証券および金銭の信託で運用しています。
投資信託・外国証券を含む有価証券の残高は4兆392億円、金銭の信託の残高は1兆7,104億円となりました。

* 保険業法に基づく一般勘定と特別勘定間の取引から生じる債権を控除した額です。

① 収入保険料（販売額）の推移



② 保有契約の推移



④ 責任準備金

将来の保険金等の支払いに備え、保険業法で保険種類ごとに積立てが義務付けられている準備金です。

責任準備金残高 **6兆4,578億円**

主として為替（豪ドル高・円安）の影響により138億円繰入れを行った結果、6兆4,578億円に増加しました。

また、責任準備金を含む「負債の部」の合計額は6兆7,641億円となりました。

⑤ 経常利益および当期純利益

経常利益：生命保険事業本来の営業活動により、毎年継続的に発生する収益（経常収益）から費用（経常費用）を差し引いたものです。

当期純利益：税引前当期純利益から法人税および住民税ならびに法人税等調整額を控除した金額で、会社のすべての活動によって生じた利益です。

経常利益 **1,600億円** 当期純利益 **431億円**

目標金額に到達した契約の解約に伴い、返戻金の支払いに備えて保有していた外貨建債券の売却による有価証券売却益を計上したことにより、経常利益は前年度から1,286億円増加し、1,600億円となりました。財務の健全性確保に向けて価格変動準備金の積立を実施したこと等から、当期純利益（税引後）は前年度から228億円増加の431億円となり、2009年度から12期連続で黒字を確保しました。

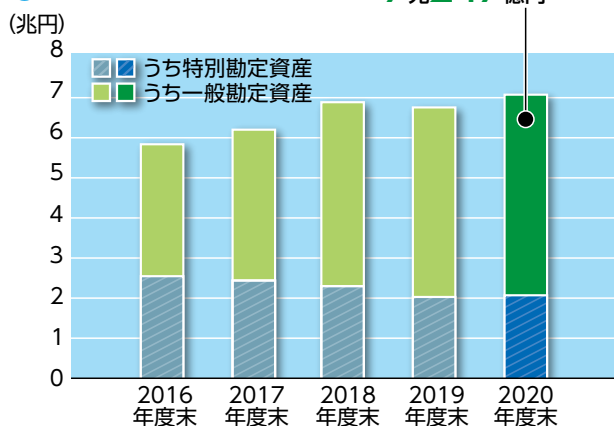
⑥ 基礎利益

生命保険会社の本業における収益力を示す指標の一つで、一般事業会社の営業利益に近いものです。経常利益から、売買目的有価証券の評価損益等の「キャピタル損益」と、危険準備金繰入額等の「臨時損益」を差し引いて算出されます。

基礎利益 **408億円**

基礎利益は前年度から688億円増加し、408億円となりました。

③ 総資産の推移



⑤ 当期純利益の推移



⑦ 純資産

貸借対照表の「純資産の部」の合計金額です。

純資産 **2,605**億円

当期純利益431億円の計上等により、前年度末から657億円増加し、2,605億円となりました。
なお、資本金（410億円）および資本準備金（247億円）は前年度末から増減はありません。

⑧ 逆ざや

経済環境の変化により、予定利率により見込んでいる運用収益が実際の運用収益でまかなえない額が発生している状態のことです。

逆ざや **なし**

予定利率により見込んでいる運用収益を実際の運用収益が上回っており、逆ざやはありません。

健全性の状況

当社の経営の健全性を示す主な経営指標は以下のとおりです。

① ソルベンシー・マージン比率

ソルベンシー・マージンとは「支払余力」という意味です。ソルベンシー・マージン比率は、株の暴落や大災害など、通常の予測を超えて発生する諸リスクを数値化した合計額に対する「支払余力」の比率として表され、保険会社の経営の健全性を示す行政監督上の指標の一つです。

ソルベンシー・マージン比率 **1,054.8**%

前年度末から308.8ポイント増加の1,054.8%となり、引き続き十分な支払余力を維持しています。

$$\text{ソルベンシー・マージン比率} = \frac{\text{ソルベンシー・マージン総額}}{\text{リスクの合計額} \times \frac{1}{2}}$$

ソルベンシー・マージンを構成する主なもの	資本金等、価格変動準備金、危険準備金、全期チルメル式責任準備金相当額超過額、負債性資本調達手段等 など
リスクの合計額	保険リスク、予定利率リスク、最低保証リスク、資産運用リスク、経営管理リスクなど、通常予想できる範囲を超える諸リスクを数値化して算出します。

(注) 詳細は、コーポレート・業績データ V. 8. 保険金等の支払能力の充実の状況（ソルベンシー・マージン比率）をご参照ください。

② 実質純資産額（実質資産負債差額）

時価ベースの実質的な資産の合計から、危険準備金等の資本性の高い負債を除いた負債の合計を差し引いて算出するもので、ソルベンシー・マージン比率と同様、保険会社の経営の健全性を示す行政監督上の指標の一つです。

実質純資産額 **7,727** 億円

前年度末から 1,006 億円増加し、7,727 億円となりました。

③ 当社の格付け

独立した第三者機関である格付会社が、保険会社の保険金支払いに対する確実性をさまざまな情報から判断・決定し、アルファベット等の記号でわかりやすく表したものです。

当社は、以下のとおり、格付会社から高い評価を受けています。

■ スタンダード・アンド・プアーズ（S&P）保険財務力格付け

保険財務力格付け **A+**

■ 格付投資情報センター（R&I）保険金支払能力格付け

保険金支払能力格付け **AA**

- (注) 1. 上記の格付けは、保険会社が保険契約の条件に従い保険金を支払う能力の前提となる保険会社の財務内容について示したものです。
 2. あくまでも格付会社の意見であり、保険金の支払いが保証されるものではありません。
 3. 本格付けは、2021年7月1日現在の評価であり、将来的に変化する可能性があります。

スタンダード・アンド・プアーズ社 (S & P)		格付投資情報センター (R & I)
保険契約債務を履行する能力は極めて高い。	AAA	保険金支払能力は最も高く、多くの優れた要素がある。
保険契約債務を履行する能力は非常に高い。 最上位の格付け（「AAA」）との差は小さい。	AA	保険金支払能力は極めて高く、優れた要素がある。
保険契約債務を履行する能力は高いが、上位2つの格付けに比べ、事業環境が悪化した場合、その影響をやや受けやすい。	A	保険金支払能力は高く、部分的に優れた要素がある。
保険契約債務を履行する能力は良好だが、より上位の格付けに比べ、事業環境が悪化した場合、その影響を受けやすい。	BBB	保険金支払能力は十分であるが、将来環境が大きく変化する場合、注意すべき要素がある。